2023/08/13

川崎支部便り　第 67 号　（2023 年 08 月）
オープンで各自が主役：川崎支部

川崎支部支部長　山岸一雄　（執筆：山岸））

人生を豊かに（雑学のすすめ）

【機嫌よければ、うまくいく】

元聖心女子大学教授の鈴木秀子（1932 年生）の言葉です。私たちの一生は一日一日の積み重ねです。その一日だけを考えると特別なことはそれほど多くないのでしょう。働いていたら、朝起きて身繕いをして、仕事に向かう。仕事を終えて家に帰り、ご飯をいただき、お風呂に入ってやすむ。専業主婦の方なら、家族の朝食を作ることから始まり、家事をすませ、帰ってくる家族を迎え入れてご飯を食べ、お風呂に入って休む。ほぼ毎日、同じことの繰り返しです。

単調な毎日。でもこれは決して当たり前のことではありません。安隠な暮らしは、決して当たり前でも平凡でもないのです。人生は儚（はかな）く、命は脆いもの。家族が病気になった、勤務先が倒産したなど、突然、昨日までの光景とは違う日常が訪れたりします。だから昨日と変わらず今日を迎えられている自分を、ねぎらって認めてあげて下さい。

（鈴木秀子氏から）

川 崎 点 描 ： 川崎支部活動拠点

【(世田谷と二子玉川と映画「ALWAYS　三丁目の夕日」)】

1978 年（昭和 53 年）8 月 1 日に二子多摩川園駅を介して、東急新玉川線（二子玉川園ー渋谷）と営団半蔵門線の直通運転が開始しました。翌年 8 月 12 日には東急田園都市線（つきみ野駅ー二子多摩川園）が新玉川線を経由して、半蔵門線への直通運転を開始しました。半蔵門線はこの時、青山一丁目駅止まりでした。当時の二子玉川園駅の立体交差で、上が大井町線、下が新玉川線でした。

現在の二子玉川駅に近い多摩川沿いには、1922 年（大正 11 年）に「玉川第二遊園地」が開園して以来、多くの行楽施設がありました。戦争の影響などで閉園し、農地に変わることが有りましたが、戦後復興の中で 1954 年（昭和 29 年）、児童の楽園を目指す二子玉川園が開園しました。駅名も二子玉川園駅になり、玉電や大井町線を利用して多くの親子連れが来園しました。また学校の遠足でも訪れ、本当に多くの子供の楽園になりました。

豆電車・観覧車・飛行塔・回転遊覧船等の充実した施設に加え、1956 年（昭和 31 年）4 月には当時東洋一ともいわれた「フライングコースター」が完成しました。子供に限らず、スリルを味わいたい大人にも人気でした。また、「航空博覧会」「輸入会社ショー」といったイベントも好評でした。五島ローズガーデンは、1957 年（昭和 32 年）に二子玉川園に併設する形で開園しました。来園者は遊園地の奥へ進み、フライングコースターの脇を抜け、ガーデンの入口へと移動しました。しかし、各地の所以地が大規模する流れに逆らえず、1985 年（昭和 60 年）に閉園しました。**跡地は「二子玉川ライズ」**になりました。（玉川高島屋 S.C は 1969 年（昭和 44 年）に二子玉川駅前に出来ました）映画「ALWAYS 三丁目の夕日」に描かれた東京の下町の人情はどこに行ったのでしょうか。

映画「ALWAYS　三丁目の夕日」は昭和 33 年（1958 年）の東京の下町を舞台とし、夕日町三丁目に暮らす人々の温かな交流を描くドラマです（当時の港区愛宕界隈を想定）。建設中の東京タワーや上野

駅、蒸気機関車 C62、東京都電など当時の東京の街並みをミニチュアと VFX（CG）で再現した点が特徴で、昭和 30 年代の街並みが再現されたコンピュータシミュレーションでは、東京工科大学メディア学部の研究室が協力しました。

（多摩川園の空撮－1930 年）

（多摩川園駅前－1970 年）

（画像は Yahoo Japan から引用）

支部の活動

①幹事会とお花見：2023.03.18（土）10 時から、JR 南武線津田山駅隣接の緑ヶ丘公園の噴水前で、満開の桜を愛でながらの開催でした。 3 月末の WEB 総会前の運営方針、行事予定や収支報告書の確認でした。OB の方も参加しました。

②次回の講演会：2023.04.22（土）（白木准教授）本学の創立の経緯と建学の精神
（夢キャンパス 14 時開催＋ZOOM のハイブリッド）　思わぬ裏話が聞けそうです。

2023/08/13

ご存じですか

【江戸の長者番付とは？】

天皇家の領地は 17 世紀（江戸前期）初期に 1 万石でしたが、2 代将軍秀忠の時に 1 万石、5 代将軍綱吉の時に 1 万石の寄進が有り、8 代将軍吉宗の時には 3 万石になっていました。収入は 35%の税率として 1 万 500 石＝1 万 500 両とあるので、現在のお金にして 17 億 100 万円です。全額が天皇家の生活費になりますが、江戸の公方様の生活費に比べると 2 割弱にすぎません。それでも大きな収入と言えますが、御所の維持費や年中行事の費用、天皇側に仕える男女の経費等に当てるのが精一杯で、外出等贅沢な生活は出来なかった様です。

ここでは、公方様と比較してみます。毎朝お目覚めになると、うがいと手水（ちょうず）（洗顔）をされます。洗顔は糠を入れた木綿の袋で、お付きの女官「お局」が絞った湯布で顔を拭かれます。公方様の側には男性しかいませんが、天皇の側には女性しかいません。このあと歯に「鉄漿（かね―おはぐろ）」をつけます。これは公家衆も同様です。

身支舞が済むと常の御殿の御居間に移られ、神様・仏様・御陵（泉涌寺―せんにゅうじ）に遥拝され、食事の「御朝餉（あさがれい）」になると、最初に「おあさ」が出てきます。餡（あん）を被せた団子ほどの餅を六つ土器に盛り、白木の三方に載せてあります。戦国時代の乏しかった朝食を忘れない為のセレモニーで、餡には砂糖ではなく塩が用いられていた為、ご覧になるだけで食べませんでした。

「おあさ」が下がると、朝御膳になります。御膳を拵（こしら）える「板元」から「板元吟味役」に渡され、主上のお口に合う様甘い辛いを調べていると御膳番が現れ、御膳を点検して三方に載せます。その三方を「御末」という女官に渡し、御末から「命婦（みようぶ）」へ、命婦から受取った「内侍（ないし）」が主上の前に供えます。お残しが有ると御末 7 人の拝領になるといいます。

食後しばらくは休息され、午前の手習い・学問・和歌となり、昼御膳のあいだに煎茶・薄茶、あるいは菓子を召し上がります。最初の学びは、17 世紀前半の元和元年（1615 年－大坂夏の陣で豊臣氏滅亡）に幕府と朝廷で取り決めた「禁中並公家諸法度」の第 1 条で、「天子諸芸能の事、第一御学問也」として学問と和歌に習熟することが定められています。昼御膳には、毎日、塩焼の鯛がでます。目の下 1 尺（約 30cm）と決まっています。味噌汁は鯛等魚の入った精進物となります。午後は休憩のあと、午前と同じく、薄茶、煎茶、菓子を召し上がり、手習い・学問・和歌をされるのが日課でした。

夕御膳の時に御所言葉で「オッコン」というお酒を呑まれます。錫（すず）の徳利で燗をして差し上げ、御酌は「お局」の役目です。幕末の孝明天皇の様にお酒の好きな方は午後 10 時頃まで呑まれることが有り、その時のお休みは午前 0 時になるとのことです。

（江戸の長者番付　菅野俊輔　青春出版社より）

次号もお楽しみに。 皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。

問合せ・連絡先：川崎支部　幹事長　松本浩一
TEL：090-9363-6082　E-mail：kawa_matsu51@ v 00.itscom.net